

# 駆け付け警護訓練公開

## 岩手で初 武器使用見送り

### 南スーダン派遣陸自

陸上自衛隊は24日、安全保障関連法に基づく新任務として可能になった「駆け付け警護」と「宿営地の共同防衛」の訓練を、岩手県の岩手山演習場で報道陣に初めて公開した。11月から南スーダンの国連平和維持活動(PKO)に派遣される11次隊の要員が事態に対処する手順の一端を示したが、武器使用の場面は含まれなかった。

政府は第9師団第5普通科連隊(青森市)が主力の11次隊に新任務を付与する方針を固めており、訓練は最終段階とみられる。現地情勢や訓練の習熟度を勘案し、11月中旬にも、新任務を活動内容に加えた実施計画を閣議決定する方針だ。

駆け付け警護の訓練は、仕事を求める南スーダンの群衆が道をふさぐなどしたため、国連職員2人が付近の建物から外に出られなくなったこの想定。PKO司令部の要請を受けた自衛隊員約20人が軽装甲機動車で駆け付け、拡声器で警告。防護盾を持った隊員が近づくと、群衆はそのまま退散した。

# 危険隠し 思惑露骨

## 表層 深層

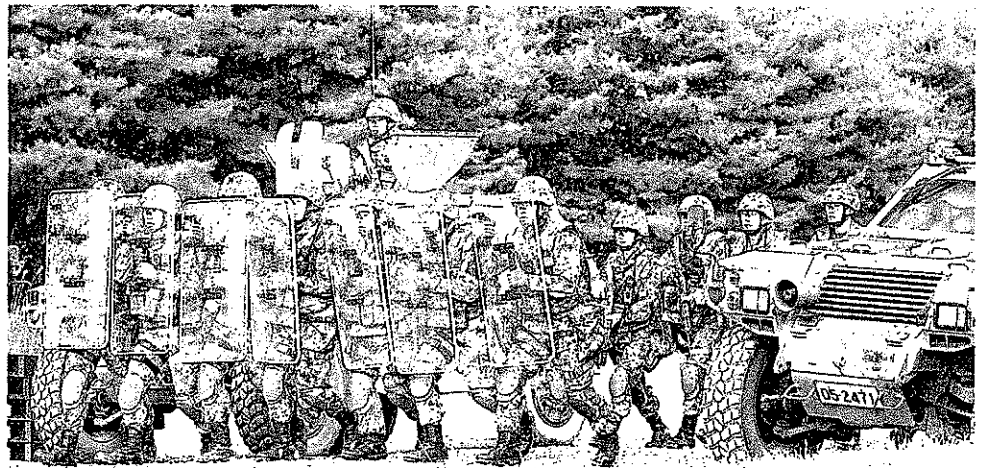
安全保障関連法に基づく「駆け付け警護」など新任務の訓練を陸上自衛隊が24日、初めて公開した。だが公開されたのは戦闘に巻き込まれることも、武器使用の局面も想定しない「穏やかな」内容。新たな部隊行動の全貌は見えず、異例の事前介入で「危険な任務」とのイメージを払

## 官邸介入 全貌見せず

拭しようとする政権の意向が露骨に表れた形となった。

▽「成功」

「オープン・ザ・ロード」(道を開ける)。24日午後、岩手県の岩手山演習場に隊員の鋭い声が響いた。南スーダン政府の施設周辺で仕事を求める群衆の一部が



報道陣に初公開された「駆け付け警護」の訓練で、国連職員の保護に向かう陸上自衛隊員＝24日午後、岩手県の岩手山演習場

民にその場から離れるよう警告した場面で公開は終了。どのように住民を「排除」するのかさえ明らかにならなかった。いずれの場面も「最も緊迫度が低い内容」(幹部)にとどまった。

### ▽神様賢

南スーダンに派遣される11次隊が新任務の実動訓練を始めたのは9月14日。陸自幹部によると、この1カ月、任務を妨害する行為を排除するため新たに可能になった警告射撃の手順や、催涙剤による対応などを繰り返し確認。法的に何ができて何ができないかを体に染みこませたという。

### ▽混迷

国会で稲田氏は安全性を繰り返し強調した。現地情勢の悪化を理由に「自衛隊派遣の前提が崩れている」と攻勢を強める野党に「新任務は対応可能な範囲で行う」と慎重な態度を表明し、「任務拡大で隊員のリスクは高まらない」と言明した。

だが、実施場所や具体的な内容は非公表。いったん10月上旬で調整が進んだ訓練の公開も、この時期までずれこんだ。官邸側は公開に先立ち、当日のイメージ図を付けた報告書を防衛省に要求。官邸が訓練内容に介入するのは「極めて異例」(政府関係者)で、報告書提出後には、当初より

しかし、南スーダンの治安情勢は混沌としている。政府は駆け付け警護の実施を自衛隊宿営地がある首都ジュバ周辺に限定する方向だが、ジュバでも7月、政府軍と反政府勢力との間で大規模な戦闘が発生し270人以上が死んだ。宿営地から約100キロ先のビルでも2日間、銃撃戦が続いた。治安回復のため国連安全保障理事会はPKO部隊の増派を決議したが、南スーダンのキール大統領が内政干渉につながるとして、一時「深刻な懸念」を表明するなど、先行きは不透明だ。

道をふさぎ、付近の建物から駆けなくなった国連職員を、つぎつぎと逃げ去った。この間に派遣されている自衛隊員が救助に向かう想定だ。

ただ、先頭で対応に当たった隊員が手にしていたのは防護盾。「長距離音響発生装置」(LRAD)で不快な音を車員が外壁の近くに集まった住

「波風が立たない内容に変更された」という。別の関係者は「官邸が神経質になっていた」と理由を明かす。11次隊への新任務付与の是非を巡り、臨時国会で稲田防衛相が論戦の矢面に立たされていたからだ。

国会で稲田氏は安全性を繰り返し強調した。現地情勢の悪化を理由に「自衛隊派遣の前提が崩れている」と攻勢を強める野党に「新任務は対応可能な範囲で行う」と慎重な態度を表明し、「任務拡大で隊員のリスクは高まらない」と言明した。

日本政府は11次隊に新任務を付与する方針を固めている。自衛隊幹部の一人は「現地情勢を考えれば新任務付与をしばらく見送ってもいいと思うが、安保法成立を急いだ立場を考えれば仕方ないのだから」と漏らした。



国連職員役の男性(中央を保護する陸自隊員)